

令和 5 年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

令和 6 年 1 0 月

はじめに

下呂市では、下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

下呂市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、施策及び事務事業に関する点検・評価を実施し、報告書を作成しています。

令和6年10月

下呂市教育委員会

令和5年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

1 方針及び設定指標に係る点検・評価

【基本方針】

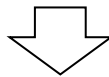
ふるさとの風を感じ、たくましく生き抜く子どもの育成

【令和5年度の重点】

- ・児童生徒一人一人の「命」を守り、誰もが「存在感」を感じられる学校づくり
- ・学校、家庭、地域が、個の「たくましく生き抜く力」をはぐくむ
- ・自己の良さを発揮し、指導力と専門性の向上を目指す職場環境づくり

【指標】魅力ある学校づくりに向けて

- ① 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を90%以上にする。
- ② 「授業が分かりやすいと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。
- ③ 「授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合」を80%以上にする。
※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援の充実



《指標結果》

① 「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
目標	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	94.9	94.8	95.2	94.9	95.5	94.7	93.8	92.5	92.8	91.6	93.4

② 「授業が分かりやすい」と答える児童生徒の割合

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
目標	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	95.0	93.7	95.3	95.1	95.7	95.3	94.0	94.6	94.4	92.6	92.6

③ 「授業で学ぶことが楽しい」と答える児童生徒の割合

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
目標	令和元年度からの新設設定指標						80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
実績							91.4	92.4	92.1	90.7	91.7

〈総評〉

- 「学校が楽しい」が93.4%、「授業の内容が分かりやすい」が92.6%、「授業で学ぶことが楽しい」が91.7%となり、いずれも前年度を上回っている。その中で、学校別に見ると、90%を超えた学校は、①「学校が楽しい」においては、令和4年度は10校（小7校、中3校）だったのに対し、令和5年度は13校（小7校、中6校）となった。同様に③「授業で学ぶことが楽しい」においては、令和4年度が8校（小5校、中3校）だったのに対し、令和5年度は11校（小8校、中3校）に増加した。このことは各学校で授業改善がなされ効果が表れてきたことを示すとともに、小学校における教科担任制や総合的な学習の工夫、中学校における生徒の自発的な取組の推進等、特色ある学校づくりが行われていることによって、多くの児童生徒が充実した学校生活を送れるようになってきたことを示しているといえる。
- ただ、設定指標を上回っていることに安堵せず、今後も引き続き、「楽しくない」「分からない」と答えている児童生徒に目を向け、学校生活において一人一人が輝けるように指導、支援を継続していく必要がある。

2 重点における評価

(1)「確かな学力」を育む指導の充実

① 学力向上、教科指導充実内容と評価

【主な取組】

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析をもとにした授業改善
- ・学校の課題や特色に応じた指導形態の推進
- ・個別対応や専門的な指導の実施：少人数指導加配教員、教科専門加配教員配置校（萩原小、下呂小、萩原南中、下呂中）
- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
- ・ICT（タブレット）を活用した授業
- ・CRT調査やQU検査をもとにした個々の児童生徒の実態把握

【成果・評価】

全国学力・学習状況調査の結果は全国平均を上回っており、下呂市の児童生徒の学力水準は高い。このことは、「授業がわかりやすい」「授業で学ぶことが楽しい」と答える児童生徒の割合が目標値を大きく超えていることにも関連していると考えられる。

これらの背景には、各学校の授業において、児童生徒の学びを止めない、追究し続ける姿を大切にしながら教師が指導してきたことで、課題に向かって自ら答えややり方を見つける喜びを多くの児童生徒が感じているといえる。

また、タブレット型PCの活用により、児童生徒の個々の興味関心や能力、活動の進み具合に応じた授業づくりを行う学校も増えてきていることも大きい。特に、「Metamoji（メタモジ）」という学習支援アプリを用いることで対話活動や協働学習がしやすくなり、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深めていく児童生徒が増えてきた。

6～7月の飛騨教育事務所学校職員課訪問で明らかになった課題を、10～11月の市教育委員会による学校訪問で評価・点検を行うとともに、次年度に向けた改善点について指導し、学校全体で学力の向上を図る取組を実践するよう指導した。

② 特別支援教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・指導教諭配置による各校への指導と助言及び特別支援コーディネーターの資質向上
- ・市障がい児教育支援委員会の充実による適正就学と適切な支援体制の構築
- ・市費学業支援員、県費非常勤講師配置による個別支援の充実（市費30名 県費2名）
- ・下呂市専門家チームによるこども園や小中学校への訪問派遣

【成果・評価】

□特別支援学級、通級指導教室設置状況

	知的	自閉情緒	難聴	肢体不自由	言語通級	LD/ADHD等通級
小学校（9）	7校	5校	1校		2校	4校
中学校（6）	6校	5校				

- ・令和5年度も、市費学業支援員等の配置を計画的に行った。各校においては、関係機関による指導助言や見立てをもとに保護者との相談を丁寧に行うことにより長期的な見通しをもった支援などにつなげつつある。「下呂市専門家チーム派遣」が活用され、自校の児童生徒の支援の充実につなげることができた。

- ・対象児童生徒は増加・多様化傾向にあり、保護者や児童生徒本人を、医療機関や専門機関につなげ、より適した支援を行っていくことが課題である。

(2)「豊かな心と健やかな体の育成」を図る指導の充実

① 生徒指導の充実内容と評価

【主な取組】

- ・管理職のリーダーシップのもと生徒指導体制を構築（組織対応、未然防止、早期発見と早期対応、連携）・改善する
- ・居場所と絆作りによるいじめ防止と早期発見・早期対応に関する研修の充実
- ・規範意識を高める指導の工夫と充実
- ・生徒指導研究協議会や主幹教諭による各校への指導と助言及び生徒指導主事の資質向上

【成果・評価】

□ いじめの認知件数

H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
34	25	117	123	108	54	87	77	105

- ・昨年度と比べて認知件数は28件増加したが、重大事態に至ったケースはない。これはいじめを早期に発見し、指導していることの結果であると捉えている。「子どもたちは間違いをしながら成長する」という認識に立ち、自分の行いを見つめさせていくことで、自身の成長につなげていくスタンスに変わりはない。
- ・早期発見のために、学校生活アンケートや教育相談週間を年間に複数回実施し、児童生徒の思いを聞く機会をより多く設けている。
- ・「下呂市いじめ防止等対策推進条例」等に基づき、「下呂市いじめ問題専門委員会」と「下呂市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、いじめ問題に対する組織体制を整えている。

□ 不登校

校種	小学校						中学校					
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	H30	R1	R2	R3	R4	R5
人数	5	4	3	7	9	17	15	17	20	28	28	43
1000人当たり	3.3	2.6	2.0	5.0	6.8	13.5	18.9	22.2	26.8	36.7	35.0	54.0

- ・小中学校ともに、1000人当たりの出現率が国や県を下回る傾向で推移している。
*R5：1000人当たりの出現率：国（小）21.4人（中）67.1人 県（小）22.5人（中）65.8人
- ・下呂市内の小中学校における出現率は増加している。この背景にはコロナ禍の影響とともに家庭状況や人間関係などさまざまな要因が絡んでいると考えられる。しかし、原因を探ることよりも、不登校や不登校傾向の児童生徒が社会性を育んでいけるようにするために、その子の興味関心がどこにあるかを探り、専門家やその分野のエキスパートにつなげていくこと、そして居場所を作ることが大切であるとする。今後も引き続きこうした視点で支援を行っていく。

② 健康及び安全教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・「自分の命は自分で守る力」の育成（命を守る訓練の充実、市防災訓練への小中学生の参加）
学級活動における食育や健康教育の充実
- ・食物アレルギー対応指針の啓発（保護者向け説明実施）
- ・スクールサポーター事業の継続、強化 ・ボランティアによる見守り活動
- ・危機管理課や警察など関係者による児童生徒の通学路の点検

【成果・評価】

- ・各学校においては、安全計画に基づき年間に3回以上の命を守る訓練が実施された。各回の内容は同じものではなく、地震や火災を想定したものをはじめ、開催日を知らせないで行う抜き打ち訓練も実施している。また、これら以外にもJアラートを利用した訓練も行っており、とっさの時に判断し行動できる児童生徒が育ってきている。
- ・下呂市総合防災訓練においても、当日の午前は部活動（地域クラブ）を実施しないように各学校に依頼している。児童生徒には、各地域での訓練に参加して、地域で災害が発生した際に命を守ることの大切さを考える機会となるよう、保護者や学校を通じて啓発した。
- ・危機管理課との連携により、これまで行ってきた通学路点検によってどのように改善が図られたかが集約され、地域住民にも示された。学校とも共有し、今後も引き続き改善に向けて取り組んでいく。

(3) 地域に信頼され地域と共にある学校づくり

【主な取組】

- ・児童生徒や保護者、学校評議員、教職員によるアンケート調査を実施し、定期的評価・検証による教育活動を展開
- ・各校ホームページ充実（教育活動や行事の紹介（写真）や学校だより、学校評価）
- ・地域協働による子育て体制整備

【成果・課題】

令和5年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、次のような結果が出ている。

（数字はすべて「当てはまる」と回答した児童生徒の割合）

- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
下呂市：42.6%（県21.0%、全国12.0%）
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
下呂市：31.9%（県23.0%、全国19.6%）
- ・日本やあなたが住んでいる地域について、外国の人たちにもっと知ってもらいたいと思いますか
下呂市：34.4%（県26.3%、全国26.2%）
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか
下呂市：81.5%（県73.3%、全国71.7%）

この結果は、下呂市には、地域を大切にし、地域を誇りに思っている児童生徒が多いことを示しているといえる。これは、地域住民が子どもたちを大切に育てていることを表している。

特に、地域学校協働活動をはじめとして、子どもたちがボランティア活動に進んで参加する機会を作るなど、子どもたちと一緒に地域づくりを行っていかうとしているからだと言えよう。

子どもたちはこうした活動を通して、地域の人々の温かさと下呂の自然の豊かさを実感している。

(4) 教職員の資質向上

【主な取組】

- ・教育研究所による研修事業の充実
- ・市初任者研修、2年目研修実施
- ・市校長研修、教頭研修実施
- ・嘱託研究員会の開催
- ・教科専門指導員、ICT指導員

【成果・評価】

- ・タブレットを活用した授業での職員の指導力向上のために ICT 指導員による参集型の実践研修を3回実施した。その後、各校の情報担当者が、自校職員のタブレット活用力向上のための研修を企画して実施した。その様子は、web によって他校の情報担当者も参観できるようにしたことで、市全体の教員の ICT 活用力向上につながった。
- ・教科専門指導員が29名の若手教員の授業を年間に2回以上参観し、懇談を実施した。この中で、若手教員の悩みに答えたりよりよい指導のための助言を行ったりすることができた。
- ・教育実践講座を夏季休業中に開催し、12講座を開設した。延べ311人の教職員が参加し、自身の指導力向上に努めた。
- ・教育実践論文を募集し、審査した。応募点数全17点（一般5 新人12）

(5) 教育環境の整備と充実

- ① 育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

【主な取組】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・育英資金活用事業 | 高校生 15 名 |
| ・要保護・準要保護就学援助事業 | 小学生 78 名、中学生 66 名 |

② 改築、修繕関係

児童・生徒の教育施設環境向上のため、以下の事業を実施した。

1. 小学校

- ・尾崎小学校受水槽取替工事
- ・竹原小学校救助袋取替工事
- ・上原小学校プールろ材入替工事
- ・宮田小学校屋内運動場トイレ洋式化工事
- ・上原小学校屋内運動場トイレ洋式化工事
- ・馬瀬小学校屋内運動場照明LED化改修工事（令和4年からの繰越事業）
- ・特別教室の空調設備整備工事実施設計業務
（宮田小、尾崎小、下呂小、竹原小、上原小、金山小、馬瀬小）

2. 中学校

- ・小坂中学校の高圧受電設備改修工事
- ・小坂中学校屋内運動場照明LED化改修工事（令和4年からの繰越事業）
- ・特別教室の空調設備整備工事実施設計業務
（萩原南中、萩原北中、小坂中、下呂中、竹原中、金山中）

令和5年度「社会教育の方針と重点」についての点検・評価

分野別方針と評価

下記分野別重点事項について別表のとおり事業結果等をまとめました。別表「分野別教育」の欄に次の①～④の重点事項が対応しております。

①家庭教育機能の充実

子供の自立と積極的で温かい心の育成など、未来を担う子供たちの人格形成の基礎を培うことを目指します。その実現に向けて、情報提供の工夫と支援の充実を図るような事業をより一層推進し、関係機関相互の連携を推進します。

- 妊娠期から青少年期の段階に見合った子供の育成支援
- こども園や学校、地域の連携による、家庭の教育力の向上

②地域を担う人づくり

生涯にわたる学習・生活の基礎等となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらにはボランティア精神や公共心を養う事や社会変化に適切に対応できる能力、たくましく生きるための健康や体力など、「誇りをもって共に生きる力」を身に付けることを目指します。

- 交流キャンプをはじめとする青少年の育成のための野外活動事業
- 「子ども会」などの協調性や集団活動を養うための学習機会・体験活動支援
- 地域と学校を結び、地域づくり、人づくりを考える「地域学校協働活動」の推進

③生涯学習活動の推進

文化芸術活動関連団体及びスポーツ活動団体を支援し、幅広い世代で学ぶことが出来る学習機会を確保し、余暇の充実や生きがいづくりを推進します。もって自分づくり、仲間づくり、地域づくりを図り、地域還元を目指します。

- 市内の文化芸術活動・スポーツ関連団体がもたらす学びの機会の支援
- 誰もが生涯にわたり学びの機会を得るための生涯学習講座の開設
- パソコンやスマートフォン講座開設による生活を豊かにするためのデジタル機器・媒体の理解の向上と新聞や本といったアナログ媒体の大切さを知る機会の創出

④人権教育の推進

人を思いやる心と偏見差別を生まない判断力を養う機会を創り、誰もが互いを尊重し安心して暮らせるまちを目指します。

- いじめやLGBT（性的マイノリティ）等に対する偏見、差別を無くすために研修会や人権啓発活動を実施します。
- SNSをはじめとするいじめや差別を生まない温かい心をはぐくむための情報教育の推進

社会教育事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		(分野別教育)	実績	評価
家庭教育支援総合整備事業 10040305	◇親学び講座（父親参加の体験型講座を含む） ◇命のふれあい講座 ◇企業内家庭教育研修会 ◇家庭教育支援事業（下呂市家庭教育支援チーム） ◇子育て支援の連携会議による家庭教育相談体制の強化 ◇社会教育主事2名の配置による推進体制強化の継続	①家庭教育機能の充実	①親学び講座 7回開催 119人参加 ・6/25 バランスボール教室 ・7/29 ミニ夏祭り ・8/5 ティッシュケース作り ・9/23 親子防災教室 ・10/14 おしゃべり&ロゼットキーホルダー ・1/28 インドネシア料理教室 ・2/10 断捨離&ホットハンドマッサージ ②下呂市家庭教育支援事業 UPカフェ（3歳未満児の親対象） 赤ちゃんカフェ（0歳児の親対象） 支援チームスタッフ 7人、 開催25回、延べ参加者203人 萩原地域9回、下呂地域10回、 金山地域6回 ③いのちのふれあい講座 （命の講話、託児体験、性の多様性等） 市内6中学校 34回 10小学校 21回 特別支援学級 13回 特別支援学校 9回 延べ参加者1,568人	① 親学び講座 ・親子で様々な体験をすることを通して、親子のコミュニケーションづくりを図り、子育てのヒントとなる情報や手立てを学ぶ機会となった。 ②下呂市家庭教育支援事業 ・UPカフェ・赤ちゃんカフェは、感染症対策で飲食は中止したが、保護者同士や保護者と支援チームスタッフとの語り合いの場をつくり、子育て中の母親の悩みや不安の解消、ストレス緩和を図った。休日開催も行い、交流の場を求めている母親のニーズに応えることができた。 ③いのちのふれあい講座 ・参加した児童生徒が、命の大切さ等を学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながった。

社会教育事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（ 事 業 ）		(分野別教育)	実績	評価
青少年教育諸経費 10040201	◇少年の主張の開催 ◇青少年顕彰(わかあゆ賞)の実施 ◇わくわくインターナショナルフェアの開催 ◇青少年育成市民会議の開催 ◇青少年文化等振興激励金交付 ◇立入検査(有害図書等)の実施 ◇人権学習資料の配布	②地域を担う人づくり	下呂市青少年育成推進員 13名 ①青少年育成市民会議 【R5. 6. 10開催】 ・少年の主張下呂市大会 コロナ禍による人数制限を撤廃し開催。96名の来場者があった。 各中学校から6名の代表による審査会を実施。2名を飛騨地区選考会へ推薦(金山中、下呂中代表)。 ・青少年育成顕彰「わかあゆ賞」 青少年の文化、スポーツ、奉仕活動等の優れた活動を顕彰 65名、2団体 授与式は行わず、大会冊子にて紹介、賞状・副賞は郵送。 ・地域学校協働活動の実践発表 講師：小坂中学校区地域学校協働活動推進委員 皆越真佐代氏 ②わくわくインターナショナルフェア 【R5. 11. 23開催】 子供が体験を通じて外国語の言語や文化に触れる機会を提供するイベントを開催。参加者39名	①青少年育成市民会議 ・少年の主張大会に参加した生徒6名は自らの主張を堂々と発表し評価を得たことで、生徒の自信や意欲等につながった。また、友人や家族先生をはじめとして、市民の方に聴いていただくことで中学生の思いや考えを発信する機会となった。 ②わくわくインターナショナルフェア ・主に小学校低学年の子供たちに英語に対する興味や親近感を持ってもらうことが出来た。 海外派遣団による派遣事業の活動報告やイスラエルなどの英語圏外の多文化にも触れる機会を作ることができた。

社会教育事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（ 事 業 ）		(分野別教育)	実績	評価
青少年健全育成事業 10040205	◇子ども会活動の推進 ◇親子わくわく科学体験教室の開催 ◇ふるさとジュニアサポーター活動の推進	②地域を担う人づくり	①親子わくわく科学体験教室 市内小中学校の理科担当教諭等で構成された「下呂サイエンスの会」に委託し、学校や家庭では体験できない科学を通じて、子どもたちが驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいを深める機会を作ることを目的として実施した。 8/19 39名参加 11/19 45名参加 ②青少年各種団体補助金 ・子ども会等活動育成補助金 実績 1,212千円 ③ふるさとジュニアサポーター活動 R5参加者数625人 地域の環境整備、子ども食堂、イベント等へのボランティア参加を実施	①親子わくわく科学体験教室 ・科学の楽しさを伝え広めると共に、主体的な家庭学習を促す契機となった。 ②青少年各種団体補助金 ・子ども会活動では、新型コロナウイルス感染症予防で活動ができない中でも、各子ども会が安全に配慮した活動を検討実施し、貴重な体験となった。 ③ふるさとジュニアサポーター活動 ・学校と地域との連携がCSを中心として活発に行われるようになり、ジュニアサポーターの参加が増えている
地域学校協働活動推進事業 10040207	◇地域学校協働活動 ◇放課後子ども教室（上原・中原小学校区）	②地域を担う人づくり	①地域学校協働活動 ・地域学校協働活動推進員の委嘱 14名 ・市内の全11校区で地域学校協働活動を実施。 （内容）職場体験、職業講話、農林業体験、福祉ボランティア、地域の宝さがし、地域伝統行事への参加、地域住民との交流等 ②放課後子ども教室（地域学校協働活動の一環として実施） ・上原っ子クラブ(上原小学校区) R5開催回数193回 参加児童数(平均) 16人 全スタッフ数16人 ・中原っ子クラブ(中原小学校区) R5開催回数113回 参加児童数(平均) 11人 全スタッフ数9人	①地域学校協働活動 ・各学校において、地域学校協働活動が積極的に行えるよう、推進員を委嘱して、地域人材の発掘、地域行事と学校のコーディネート。推進員の協働体制を作るため各CSに対して複数の推進員を配置していく。 ②放課後子ども教室 ・運営スタッフは、地域住民にて人数が確保でき、安定した教室運営を行うことができた。 【全体】 ・地域学校協働活動については、高齢者・保護者・主婦・学生等の参画もあり、それぞれが地域の子供たちの成長や学びを支えるという意識をもって参画しているだけでなく、自分自身の喜びや生きがいを感じる方も多い。 ・子供たちの郷土愛の醸成のみならず、住民の地域づくりにもつながっている。今後は自治会や各種団体の活動との連携を一層深めていきたい。

社会教育事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（ 事 業 ）		(分野別教育)	実績	評価
下呂市交流キャンプ開催費 10040221	◇交流キャンプの開催	②地域を担う人づくり	次年度からの交流キャンプ実施に向けてジュニアリーダーの資質向上を目的とした指導のため、また他地区のクラブ員との交流を図るため、ジュニアリーダー対象のデイキャンプを実施した。 10/1 参加者19名	コロナ渦で野外活動経験のないジュニアリーダーにとって、野外活動のノウハウを学ぶ良い活動となった。R6年度の交流キャンプ開催に向けての準備の年となった。
生涯学習講座費 10040309	◇生涯学習講座の開催	③生涯学習活動の推進	コロナ渦以前同様に前期、後期に開催を実施した。 前後期各10講座 参加者294名 総務省の補助金を利用し、スマートフォン講座を実施。146名の参加があった。	①スクエアダンス、バランスボール、絵手紙、ウクレレ体験、気功、ふるさと歴史、ピアノ、認知症、社交ダンス、スマートフォンの各講座を実施。講座終了後もサークルとして続けるグループもあり、学びの機会となった。
文化伝統芸能推進事業 10040758	◇市文化祭の開催 ◇文化協会の活動支援	③生涯学習活動の推進	市文化協会に対して、活動支援補助金1,525千円を交付。 5/13,14 市文化祭 展示の部 星雲会館 来場者数 291名 6/11 市文化祭 芸能の部 交流会館 来場者数 307名	①コロナ禍以降活動が低調となり、発表の場のない時期が続いていた。各団体の会員数も減少が続いていたが、活動、発表の場が設けられることにより活動活性化の機会となった。
体育振興団体活動事業助成費 10050109	◇体育協会、総合型地域スポーツクラブ支援補助 ◇全国大会等出場者激励金	③生涯学習活動の推進	下呂市体育協会への運営補助金12,153千円を交付。加盟種目団体数：19団体 2,436人 総合型地域スポーツクラブ活動維持補助金595千円を交付。 全国大会等出場者 57名に激励金交付。	①コロナ禍を経て活動が低調な中でもスポーツを通じた健全な肉体、精神を作りだすための活動をしていただき、市民の健康維持、運動意欲向上に寄与した。
公民館活動費 10040401	◇公民館主事の配置	③生涯学習活動の推進	金山地域の4公民館に公民館主事を配置。 金山・下原・菅田・東公民館 10講座 延べ 81名参加	①コロナ禍を経て減少した人数、機会の中でも講座を開催することにより、前年比で回数、人数ともに増となり生涯学習活動の推進に寄与した。
図書館運営 10040501	◇3図書館（はぎわら、下呂、金山）及び小坂図書室と馬瀬移動図書館の運営 ◇新刊図書購入費、図書システム運用管理 ◇資料の充実、雑誌・月刊誌の充実 ◇広報活動	③生涯学習活動の推進	・蔵書数 R4 118,403冊 R5 119,192冊（6.6%増） ・貸出数 R4 91,563冊 R5 93,397冊（2.0%増） ・年間284日開館	①蔵書数、貸出件数ともに増加となった。 ②今後も図書サービスの向上に努め、利用者の増加を図る。
男女共同参画・人権啓発推進事業 2010701	◇人権講演会の開催 ◇人権擁護委員の活動	④人権教育の推進	5/28 人権講演会 星雲会館 85名参加 人権啓発冊子の配布 市内小中学校他、関係者に配布。 市内小学校にてペープサート（紙人形劇）を開催。	①人権講演会ではLGBTQをテーマに雪斎氏を講師に講演を行った。市民がお互いに尊重し合い、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現に向け、市民の意識向上を図ることができた。

令和5年度「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価

■文化財保護事業の方針と重点について

1. 方針と成果指標及び評価

1-1. 下呂市第二次総合計画の内容

[基本目標] 2. はぐくみ

[基本施策] 2-4. 歴史・文化財「みんなで守ろう文化財 ふるさとの文化を受け継ぎ守ります」

[目指すまちの姿]

- ①文化財を活用することで、地域文化の向上発展と地域振興を図っているまち
- ②市内全域にある埋蔵文化財の位置情報の正確な記録があり、迅速な情報提供、適切な保存・保護がなされているまち
- ③博物館収蔵品が適切に保存管理され、テーマに沿って随時展示公開することで、下呂市の歴史や文化が市民に深く理解されているまち

1-2. 第二次総合計画の成果指標について

【成果指標①】 埋蔵文化財調査の実施及び調査報告書の成果公開状況

年度	R2	R3	R4	R5	R6
目標	史跡復元イラストの作成 (萩原諏訪城・桜洞城)	史跡復元イラストの作成 (鳳慈尾山大威徳寺)	成果品の有効活用	未整理となっている出土資料の整理作業	未整理となっている出土資料の整理作業
実績	地域住民との共同校正作業及び展示	地域住民との共同校正作業	鳳慈尾山大威徳寺復元図複製パネル地元区贈呈	小坂・萩原・下呂地域の出土資料の整理作業実施	—

内部評価: 市内の各収蔵庫に保管する出土遺物の多くが未整理であるため、把握が不十分で活用ができていない。新たな収蔵施設に集約し適切な管理をしていくため、学校統合により廃校となった旧中原小学校の利活用を計画、地元地域との合意形成を図り理解をいただいた。

旧中原小学校へ収蔵予定の出土遺物等については、令和5年度より整理作業員2名を雇用し、土器や石器の収納箱の入れ替え作業や縄文土器のカビ除去等の作業に取りかかった。今後、整理作業と旧中原小学校への移動を並行して行い、公開活用が可能な状態に整える。⇒「目指すまちの姿②」

【成果指標②】 下呂市文化財保存活用地域計画の策定

年度	R3	R4	R5	R6
目標	近隣市町村と情報交換	近隣市町村と情報交換	基礎調査の実施（市所蔵資料調査）	基礎調査の実施（市所蔵資料・未指定文化財調査）
実績	文化財保存活用地域計画策定研修会（2/17. 18 ウェブ会議）に参加、全国の自治体事例の情報交換	文化財保存活用地域計画策定研修会（10/24～27 小浜市）に学芸員が参加、他自治体事例の情報交換	・市内収蔵施設の収蔵環境調査 ・明治期地籍図の調査 ・文化財既往調査把握のための文献調査	—

内部評価：「下呂市文化財保存活用地域計画」の作成に向け、市所蔵資料や地域の文化財の保存活用に関して有識者の助言や指導を得ながら基礎調査を開始した。令和5年度は、今後作成する文化財分布図や文化財調査に役立てるための明治地籍図の撮影を実施。また過去の文化財調査の成果を評価し、今後の調査方針の立てるための文献調査を行った。今後も基礎調査を進め計画作成に役立てたい。⇒「目指すまちの姿①」

【成果指標③】 下呂ふるさと歴史記念館（博物館法に定める博物館相当施設）入館者数

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標	14,500	14,500	15,000	12,000	12,000	15,000	15,000
実績	17,574	17,822	10,455	10,973	15,654	14,652	—

内部評価：展示の充実を図るため、継続的な企画展の開催を目指している。令和5年度については、下記2回の企画展をした。

- ・「新収蔵資料展 ～寄贈資料がつなぐ下呂市の歴史～」7月～10月
- ・「無病息災への祈りと民俗」11月～1月

今後も博物館資料の収集・整理・保存・調査研究という基礎的な活動を進めることで展示の充実につなげ、博物館の魅力向上と来館者数の増加を目指す。⇒「目指すまちの姿③」。

2. 主要な個別事業の方針と事業結果について

2-1. 文化財保存修理事業助成費 指定文化財の保存修理補助金 ⇒「まちの姿①」

【国指定】上 呂：久津八幡宮本殿保存修理工事（R4～R5の2カ年事業）

【県指定】祖師野：祖師野八幡宮拝殿屋根改修工事

御厩野：鳳凰座スプリングラー設置事業

【市指定】中 呂：禅昌寺本堂雨漏り修繕工事

国重文 久津八幡宮本殿の修理は昭和59年以来およそ40年ぶり、通常は見ることができない屋根材（こけら葺き）葺き替えの様子について現地公開事業を実施した。実際に古建築の屋根葺き職人の技術を間近で見学するなど、参加した近隣小学校の児童や市民に対し文化財建造物修理の知見を得る貴重な機会を提供することができた。

その他、岐阜県指定文化財保護事業で2件、市指定文化財で1件の修理等にかかる経費について助成を行い文化財保護に努めた。

2-2. 指定文化財保護事業 文化財の保護にかかる取り組み ⇒「まちの姿①」

【文化財審議会の開催】

3/5：令和5年度実施事業及び文化財収蔵庫整備計画を報告

【市指定文化財の現状巡視】

文化財保護巡視員15人による年2回の巡視

【文化財説明看板の設置】

市指定文化財（史跡及び彫刻）の説明看板更新及び設置

【特別天然記念物保護業務】

- ・ニホンカモシカの対応（滅失13件 捕獲放逐10件 追い払い等4件 計27件）
- ・オオサンショウウオ交雑種の対応（DNA解析終了152個体、内97個体が交雑種）

【無形民俗文化財現地公開事業への助成】

- ・現地公開に係る経費の一部に対し補助金を支出（地歌舞伎2件、獅子芝居1件）

各地域に文化財保護巡視員を配置し、天然記念物や史跡等の現状について報告を求め、異常等の早期把握に努めている。また、異常報告を受けた文化財愛護標柱や説明看板については、予算の範囲内で順次更新等を行い文化財保護の啓蒙・啓発を図っている。

ニホンカモシカへの対応として、国道や民地等で発見された死骸処理、また住宅街等に迷い込んだ個体の捕獲放逐など、在宅当番制により休日の対応についても可能としている。

昨年、県内で初めて金山町菅田川でチュウゴクオオサンショウウオと在来オオサンショウウオの交雑種が確認されたことを受け、専門家の協力のもと生息調査を開始した。これまでに調査したオオサンショウウオの約6割が交雑個体という結果で事態が深刻化していることが判明した。文化財行政としては、遺伝的多様性を守りつつ、在来種の保全を図るため適切な対策を進めるべく、交雑個体は研究機関等への譲渡を実施していく。

市指定の重要無形民俗文化財の保存と継承を目指す上で、市内2か所の芝居小屋で開催される地歌舞伎及び獅子芝居公演に係る経費の一部について支援を行っている。